

《乳幼児に起こりやすい合併症》

① 低体温

★ 広範囲熱傷により冷やしすぎた場合など…

乳幼児は成人に比べると、皮膚が薄く、また体温調節機能も未熟なので、容易に低体温を起こします。そのため、受傷部位を冷却した後は、室温・衣類による保温が大切です。

② 脱水

★ 熱傷面積 5% 前後の軽症でも起こすことがあります。

乳幼児は成人に比べて、体重に占める総水分量が多く、特有の体液分布・不感蒸泄と、創部からの浸出液も加わり、容易に脱水・ショックを起こします。そのため乳幼児の場合、受傷面積 5% 前後では予防的に、10% 以上では必ず輸液を行います。

③ 呼吸障害

★ 顔・首・胸のやけどや，火災時のガス・スチームを吸い込んだ場合など…

らを部とな肺
か難頸こと・
頃困・す要肺
間吸面こ必氣
時呼顔起が無
6・，を理・
後声も窄管炎
傷嘔て狭吸肺
受・く道呼，
，鳴な氣るて
は喘い部よつ
でにて上によ。
傷激しに管にす
熱急併的挿度ま
の，合接内程り
門しを間管・あ
声現傷て氣因が
・出熱つ，原と
膜が道よめ傷こ
粘腫氣にた受る
腔浮た腫のはす
口にま浮そら併
・位。，。れ合
膜部すはすこを
粘のまでま。ど
腔らし傷りすな
鼻れこ熱あま腫
こ起のがり水

④ 敗血症・DIC・多臓器不全

★ 受傷面積が広く，深度が深い場合は，命とりになることがあります。

染か
感症
が血
組織敗
組，死
死，す
壊しま
のそ
そ。あ
，すも
くま
すりこ
やあ
しがこ
行と起
進こき
がす引
度こを
深起全
傷を不
受症器
，血臓
は敗多
でり・
児なC
幼とI
乳地D
培ら

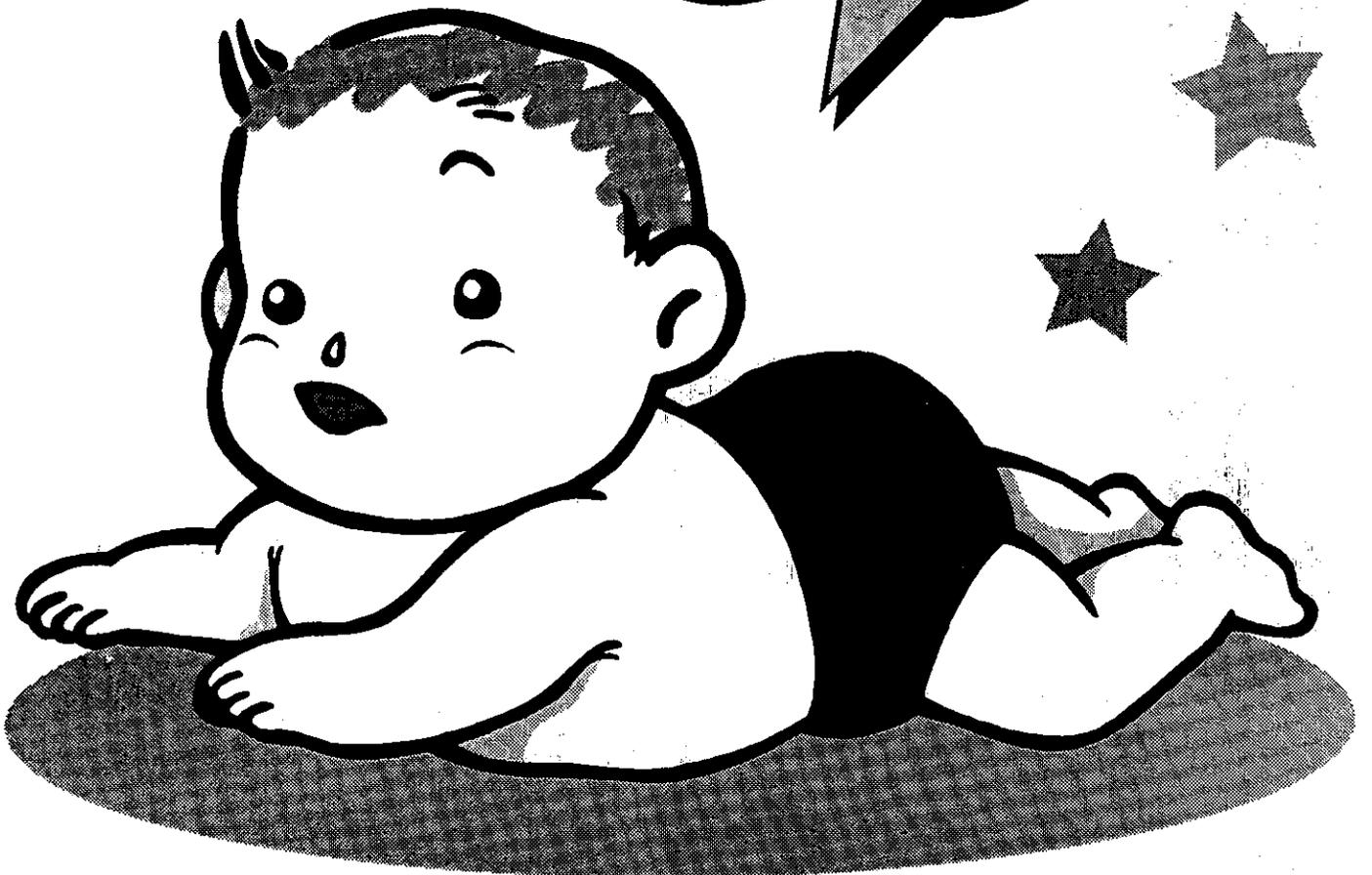
⑤ 癍痕ケロイド

★ 部位によっては，醜いだけでなく，機能障害も起こります。

源移的関特こす植う染て較，。それを層覆感つ比くす。術全を採，多ます手・位す。くくはがりま回皮部ま遅薄皮とあし数植去来がを植こがたて層除出り膚層るときせ分痕が治皮分すこをわめ癍とはのめ化す障合厚てこで分薄痕こ支に，せるけ自し癍おに長てさすだ，か来を達成し展く療しし将害発のと伸な治去。障，兎術をた膏除す方能は，正膚立軟をま一機でに修皮目，織する動兎め痕常もは組をあ運幼た癍健康と死)がて乳る。：，け壊皮点れるすす例りや，植利つあ正ま(あいめ層いきに修り弁が深た分すひ程をあ皮とにるめやは過痕が所な般な薄しで長癍要局)一も(着部成，必・法と植生節にでる皮方

乳幼児のお子様をお持ちのお母様方へ

やけどを
させないで!



金沢医科大学病院 熱傷センター

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1丁目1番地
TEL (076) 286-3511 / 内線5522

大変危険です。たばこの誤飲!! 誤飲事故を防止するために

☆ 親がちょっと目を離したスキに起こります!!

誤飲事故の発生は、台所仕事などをしていて親が小児からちょっと目を離したスキに起こります。

☆ どの年齢の小児に多いか

1歳未満の乳児が約50%を占めます。

つまり、「はいはい」「つかまり立ち」「よちよち・伝い歩き」をする赤ちゃんに多いのです。



誤飲事故が発生した場合、医療機関にかかるまでの間に家庭で行う応急処置

| | | 水を飲ませる | 牛乳を飲ませる | 吐かせる | 行ってはいけない理由等 |
|------------------------|-----------|--------|---------|------|--|
| タバコ | 葉・吸殻 | × | × | ○ | 消化管内でタバコからニコチンが溶け出して吸収されるのを促進する恐れがあるため、数時間は飲食を避ける。 |
| | タバコを浸した溶液 | ○ | ○ | ○ | |
| 強酸又は強アルカリ (洗剤・漂白剤等) | | ○ | ○ | × | 誤飲時に、喉や食道に「やけど」をおこしており、吐かせると再度「やけど」を受け、症状が悪化するため少しでも口にしたら、牛乳(ない場合は水)を飲ませ医療機関を受診する。 |
| 防虫剤 | | ○ | × | ○ | 防虫剤のように脂溶性の物質は、牛乳等の脂肪分に溶けて吸収が促進されるため。 |
| ホウ酸ダンゴ (ホウ酸) | | ○ | ○ | ○ | |
| 石油製品 (灯油・ベンジン等) | | × | × | × | 石油製品等の揮発性の高い物質は、吐かせると気管に入りやすく、少量でも入ると化学性肺炎をおこす。また、牛乳や水等を飲ませると嘔吐を誘発する可能性があるため、何も飲ませず又吐かせず医療機関を受診する。 |

○：行ってよいこと、×：行ってはいけないこと

出典：厚生省生活衛生局 生活化学安全対策室「平成6年度家庭用品に係る健康被害病院モニター報告」

☆ 小児の誤飲事故が一番多いのはタバコです

中毒110番へのタバコ(吸殻を含む)についての相談件数は、年間7千件、1日平均19件でこれは総相談件数の16%に相当します。

タバコや灰皿を小児の手の届く場所に置かないようにしましょう。

また、ジュースやビールの空き缶を灰皿の代わりに使うのはやめましょう。

☆ タバコを食べてしまったらー

【症状】 初期には、30分～4時間後に吐いたり、顔が青白くなり、よだれや冷や汗が多く出たり、元気がなくなったりという症状が現われます。

【その時の処置】

1. タバコの葉や吸殻を大量(2cm以上)に食べた場合は、なにも飲ませず、食べさせずに吐かせ、すぐ病院に連れて行きます。
2. 灰皿の中の水などタバコを浸した液を飲んだ場合は、水や牛乳を飲ませて吐かせ、すぐに病院に連れて行きます。
3. 乾いたタバコを少量(2cm以下)食べた時には、家庭で1日、様子を見ます。上に書かれている症状があれば、受診した方がよいでしょう。まる1日(24時間)経って異常がなければ、安心できます。

*注意

・タバコに対する感受性は個人差が大きく、少量でも症状が出る場合があります。

たばこ専用相談電話(無料)

たばこ誤飲事故の相談は、06-875-5199(毎日24時間、年中無休)で自動音声応答方式により受けております。



財団法人 日本中毒情報センター

〒305 茨城県つくば市天久保1-2
つくば総合健診センター内
TEL:0298-56-3566



大変危険です。こどもの誤飲!!



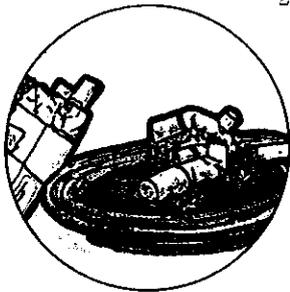
お子さんが「はいはい」や「伝い歩き」をするようになると、手に触れたものを何でも口に入れるようになります。中毒110番への問い合わせは5歳以下の小児、特に**0～1歳**の乳幼児の誤飲事故が大部分を占めています。

さて、どのようなものを口に入れてしまうのでしょうか？

下の絵は誤飲事故の多いもの、上位9品目です。

身の回りを見て下さい。この様なものがお子さんの**手**の届くところに放置されていませんか？!

1位 タバコ



2位 医薬品



3位 化粧品



4位 洗剤



カー用品、灯油



危険がいっぱい!



靴クリーム、肥料



防虫剤



クレヨン、消しゴム

蚊取りマット、
蚊取り線香、
体温計

大切なことは、事故の予防です

子どもが誤飲事故を起こす原因の大半は、親の不注意です。日頃から整理整頓に気を配り、危険な品物を子どもの**手**の届かないところに保管する心がけが必要です。

*年齢に応じて注意の対象も変わります。

| 年 齢 | 注意すべき対象(後始末や保管管理) |
|----------|--|
| 6カ月～12カ月 | 床や畳など、低い位置のものに注意。 吸殻やたばこ、植木鉢の化学肥料、バケツの中の洗剤液 |
| 1歳～2歳 | 子供の目線の高さにあるものにも注意。 洗面台や流しの下の洗剤、シャボン玉液など玩具 使用後の灯油ポンプ、鏡台の前の化粧品 |
| 3歳～5歳 | 高い場所にも注意が必要。(行動範囲が広がります) 食器棚の上の救急箱、引き出しの中の医薬品 冷蔵庫の中のシロップ薬、流しの漂白中のコップ |

* (財)日本中毒情報センターではこのような化学物質による急性中毒の緊急の相談(問い合わせ)に24時間体制で応じます。



(財)日本中毒情報センター 中毒110番
大 阪：0990-50-2499 (ダイヤルQ2)
(毎日24時間、年中無休) 3分間300円
つくば：0990-52-9899
(毎日9-17時、12/31～1/3を除く)

焦らずに誤飲したものを手に持って、子供の年齢や体重、品物の正確な名称、飲んだ量を伝えて下さい。(ただし、硬貨などの誤飲、食中毒、カビの生えた食品などについての相談には応じていません。)



森林保護のためエコマーク認定の再生紙(古紙100%)を使用しています。

子どもの安全を守るために

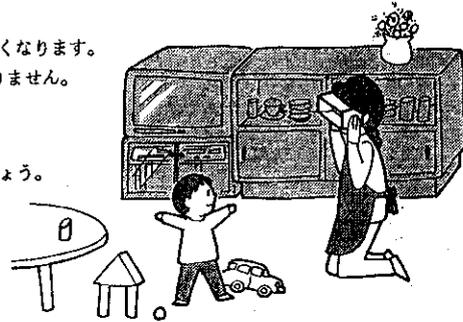
子どもセーフティセンター
 (石川県能登中部保健所内)
 〒928-0021
 七尾市本府中町ソ27-9
 森 (0767) 53-2482#0

1 子どもの特性を知っておきましょう。

- ・ひとつのものに注意がむくと、まわりのものが目に入らなくなります。
- ・ものごとを単純にしか理解できず、また、そのときどきの気分によって行動が変わります。
- ・「危ない」「注意なさい」といった抽象的な言葉では理解できません。「熱い(アチチ)」「痛い(イタタ)」など具体的な言葉をかけましょう。
- ・場面、場面に応じた行動ができません。
- ・大人がそばにいると、それに頼る気持ちが強くなります。
- ・子どもは大人に比べて1/2程度の視野しかありません。

2 子どもへの指導は

- ・言葉で教えるだけでなく、具体的に教えましょう。
- ・何度もくり返し教えましょう。



作ってみましょう

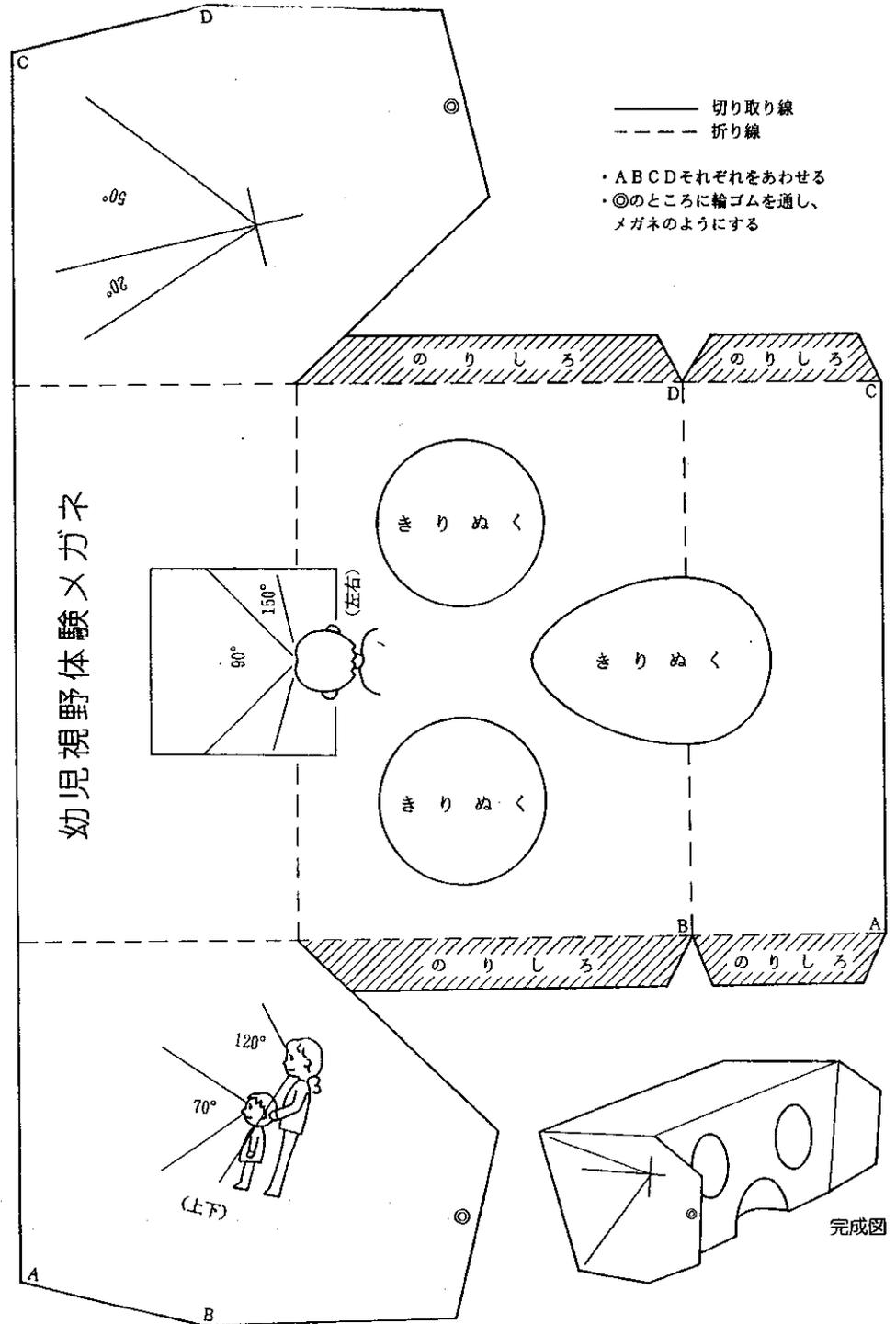
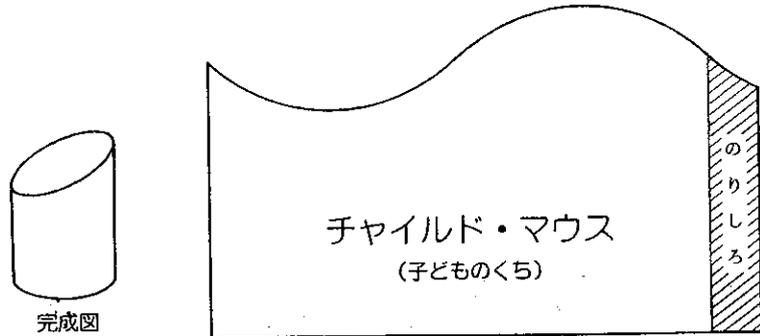
◇ 幼児視野体験めがね (右図)

子どもの特性のひとつに視野がせまいことがあげられます。右図の「幼児視野体験めがね」を組み立て、幼児の目の高さになり、視野のせまい幼児の世界を体験してみましょう。

◇ チャイルドマウス (子どものくち) (下図)

この直径32mmは子どもの口の大きさといわれています。これを通る大きさのものは誤飲のおそれがあります。

この「チャイルドマウス」に身の回りのものを入れてみましょう。意外に大きなものでも子どもの口に入ってしまうことがわかります。



子どものまわりの安全点検

石川県内では、5歳未満の子どもが毎年70人以上死亡しています。なかでも思いがけない事故で亡くなる子どもは10人あまりにのぼっています。死に至らなくても病院で治療を受けた事故や小さな事故はその何十倍も発生しているものと思われます。

大人のちょっとした注意で防げた事故もたくさんあると思います。下の図は月齢・年齢によってどんな事故が多いかを表わしたものです。

子どもは好奇心でいっぱいです。また、その成長は、さっきできなかったことが今できるというほどの変化もあります。

どきとしたことのない親はいないと思います。安全に心配りしながらのびのび育児で、発達に応じたさまざまな経験をさせたいものですね。

子どもの発達と事故

| | 運動機能の発達 | 誤飲・窒息 | 熱 傷 | 転 落 | 溺水事故 | 切傷・打撲 | 交通事故 | 玩 具 |
|------|-----------------------|---|---|-----------------------|------------|---|-------------|---|
| 誕 生 | | マクラ 軟らかいフトンによる窒息 | 熱いミルク 熱い風呂 | 親が子供を落とす | 入浴時の事故 | | 自動車同乗中の事故 | |
| 3カ月 | 体動・足をバタバタさせる | | | ベット、ソファからの転落 | | | | |
| 4カ月 | | | | | | | | |
| 5カ月 | 見た物に手を出す 口の中に物を入れる | なんでも口に入れる (タバコ、ビン、小物) | ポット、飲み物など アイロン | | | 床にある鋭い物 | | 小さなおもちゃの誤飲 鋭い角のあるおもちゃ |
| 6カ月 | 寝返りを打つ |  |  | 歩行器による転落 | | | 母親との自転車2人乗り |  |
| 7カ月 | すわる | | | | | | | |
| 8カ月 | はう | | ストーブ、ヒーター | 階段からの転落 | | | 這でのヨチヨチ歩き | |
| 9カ月 | 物をつかむ | ひも、よだれかけ |  | バギーや椅子からの転落 浴槽への転落 | 浴槽への転落事故 | | | |
| 10カ月 | 家具につかまり立ちをする | | | | | 鋭い角の家具・建具 カミソリのいたずら | | |
| 11カ月 | | ナッツ類 | | | | | | |
| 12カ月 | 一人歩きをする | | | 階段での転落 | | | | |
| 13カ月 | スイッチ、ノブ ダイヤルをいじる | クスリ、化粧品 の誤飲 ビニール袋 | | | | テーブルの鋭い角、 ドアのガラス ドアに手をはさむ 引き出しの角など | 歩行中の事故 | |
| 1歳半 | 走る、登る | | | 窓、バルコニーからの転落 | | | | |
| 2 歳 | 階段を昇り降りする | | マッチ、ライター 湯沸かし器、花火 | | プール、川、海の事故 | | | スベリ台、ブランコ 花火 |
| 3 歳 | 高い所へ昇れる | | | | | 家外での石など | 三輪車の事故 |  |
| 3~5歳 | | | | | | | 自転車の事故 | |

参考資料：子どもの事故防止マニュアル 田中哲郎 著 診断と治療社

子どもセーフティセンター
(石川県能登中部保健所内)

〒926-0021
七尾市本府中町ソ27-9
☎(0767) 53-2482代

チェックしてみよう!

- テラスや窓のそばに踏み台となるようなものを置かないようにしている。
- 自転車に相乗りするときは、専用の安全シートを使用している。
- 自転車に子どもだけを乗せたままそばを離れないようにしている。

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

- 子どもの手の届くところにタバコや洗剤、薬、小さなおもちゃなどを置かないようにしている。
- ジュースの空き缶を灰皿代わりにしたり、空きビンに洗剤や薬品などを入れないようにしている。

はい・いいえ

はい・いいえ

- 子どもの手の届くところにアイロンや熱い鍋などを置かないようにしている。
- ストーブやヒーターなどにさわれないようにしている。

はい・いいえ

はい・いいえ

- 子どもの手の届くところに刃物など危険なものを置かないようにしている。
- ドアや引き出しで指を挟まないように注意している。
- テーブルクロスは子どもがさわっても滑り落ちないようにしている。

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

- 浴槽に水をためたままにしないようにしている。
- 浴室に入れないようにしてある。
- 洗濯機に水を入れたままふたを開けておかないようにしている。

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

- 家(車)に子どもだけを残さないようにしている。
- 車に乗せるときは、専用の安全シートを使用している。

はい・いいえ

はい・いいえ

- 道を歩くときは、子どもを安全な側にして手をつないでいる。
- 三輪車の安全な乗り方について教えている。
- 遊具の正しい遊び方を教えている。
- 危険について子どもにわかるように教えている。

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

転落・転倒事故は骨折や頭蓋内出血など重症事故になることもあります。

高いところからの転落や、自転車に乗ったままの転倒は重大事故につながります。自転車に相乗りするときは、子供用の専用安全シートに乗せましょう。また、倒れやすいので手を離さないよう、離れるときは必ず子どもを自転車から降ろすようにしましょう。

子どもの手の届くところに危険なものを置かないようにしましょう。危険なものとは、

- 1 触るとけがをするもの
(カミソリ、カッター、包丁)
- 2 触るとやけどするもの
(ストーブ、アイロン、鍋、火のついたタバコ)
- 3 食べると中毒を起こすもの
(タバコ、薬、洗剤、化粧品)
- 4 飲み込むと窒息したり、内臓に影響を及ぼすおそれのあるもの
(硬貨、小さなおもちゃ、ナッツ類、ボタン電池)

やけどは程度や広さによっては命にかかります。食べものの温度やお風呂の温度には、十分注意しましょう。熱いものが入ったカップや鍋の取扱にも注意しましょう。濡たんぼやカイロなど余り熱くないと思われるものでも、長時間触れていると皮膚の深くまでやけどが進行することがあります。

開け放したドアは、風で急に閉まったりして指をはさむことがあります。安全器具などを利用し、急に閉まらないようにするか、子どもが指を入れることができないように工夫しましょう。



子どもは水遊びが好きです。お風呂はとっても興味深い場所。浴槽に水を貯めたままにしておかないように、貯めておく場合は浴室へ入れないようにしておきましょう。入浴中も子ども一人にしたり目を離すことのないようにしましょう。

幼児用プールや洗濯機なども同様です。



遊具の遊び方や三輪車の乗り方、道を歩くときの注意など安全についてくり返し教えましょう。

○ このころの子ども

自己主張が強くなり、何でも一人でしたくなります。社会性の発達もめざましく、お友だちと遊べるようになってきます。

心身が発達するために、遊びは重要な役割を果たします。しかし、小さな子どもだけでは安全に対して十分な注意が払えません。おもちゃや環境、遊具の使い方など大人が注意しなければなりません。

また、活動範囲が広がり、屋外で遊ぶことが増えます。それに比例して交通事故に遭う危険性が高まります。

▼ やけど

まずやけどをした部分を冷やし続けること。

服の上からやけどをした場合は、無理に脱がさずに上から冷やします。

●手や足 水道の水を出しっぱなしにして冷やす。

●顔や頭 シャワーなどで冷やす。目や耳は冷たいタオルをこまめに替えて冷やす。

●全身 服を着せたままお風呂などで大量の水を使って冷やす。

範囲が小さく赤くなった程度なら、まず流水で十分に冷やし、痛みがとれれば清潔なガーゼなどでおおい、その後の経過を見てから病院へ。

広い範囲のやけどや水ぶくれになるような場合は、すぐに治療を受けましょう。

患部にしょうゆやみそ、オイルなどをぬってはけません。

▼ 溺水

まず、呼吸状態を確認します。息をしていなければ、ただちに口で人工呼吸を行い、心臓マッサージを行いながら、救急車を呼びます。

水に沈んでいた場合は、事故現場での応急処置の成否が、生死を左右するので、すぐに大声を上げて人を呼び、人工呼吸を開始します。水を飲んだ場合は、肺炎などを起こす危険があるので、必ず医師に診てもらいましょう。

救命処置

人工呼吸のやり方

1 顔をひげに覆かせ、顔に片方の手のひらを当てて喉を後ろにそらせ、他方の手の指であごを持ち上げる(気道の確保)。

2 1歳くらいまでの乳児の場合は、子どもの口と鼻の両方に口をふせて、息を吹き込む。目安は3秒に1回程度。

3 幼児(1歳以上)の場合は、子どもの鼻をつまんで口を吹き込む。目安は4秒間に1回程度。いずれも自分で呼吸できるようにするまで続ける。

心臓マッサージのやり方

1 子どもをおむけに覆かせる。

2 乳児(1歳以下)の場合は、左右の乳首のまん中より指1本ずつあたり2本の指を当て、胸を強く押し、力を抜く。これを1分間に100回ほどくり返す。

3 幼児(1歳以上)の場合は、胸骨(みぞおちのかたい骨)の上に手のひらを当て、手首に近い部分で2~3cmおむけに押し、力を抜く。これを1分間に100回ほどくり返す。

救急車を呼ぶときは・・・119番

1 119番に電話をかけ、「救急です」とはっきり告げる。

2 聞かれたことにはっきり答える。

・氏名、所在地、目印、電話番号など

・いつ、どこで、どうしたなどの状況

3 救急車が到着するまでに処置することがあるかをたずねる。

4 救急隊の指示には必ず従う。

注) 救急車は生命が危険にさらされ一刻を争うようなときに利用するもので、本当に必要かどうかを落着いて判断しましょう。

お母さんあわてないで！思わぬ事故から赤ちゃんや子どもを守りましょう。

乳幼児の事故防止と応急手当 0990-528199

●監修
財団法人母子衛生研究会
●提供
健康生活情報センター
所在地・東京 TEL (03) 3499-3111

24時間いつでもご利用いただけます。

●ご利用方法

- ・あらかじめ下記の表で、知りたい情報の項目番号を確認し、上記の電話番号をダイヤルします。
- ・ご利用案内のテープが流れますので、案内終了後、指示にしたがい知りたい情報の項目番号と*を押します。

(ご利用上の注意)

- ◎このサービスは、プッシュ回線の電話またはプッシュ番号音でのる電話機でご利用いただけます。
- ◎一部通話不能の地域があります。「0120-409901」にご確認ください。
- ◎このサービスのご利用にあたっては、通話料の他に情報料として10秒あたり約13円の料金がかかります。
- ◎状況の変化やご要望などにより、情報内容を一部改訂する場合があります。

| | | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 1111: 赤ちゃんに多い事故 | 4118: 玄関、廊下 | 5216: マッチ、ライターの保管 | 〈外出時〉 | 6214: 消臭剤、乾燥剤 |
| 1112: 幼児に多い事故 | 4119: 庭、物置 | 5217: 花火で遊ぶ | 5711: 散歩をする | 6215: ナフタリン、しょうのう |
| 1113: いざというときのために | 〈屋外〉 | 〈誤飲、異物の混入〉 | 5712: ベビーカーでお出かけ | 〈誤飲・吐かせてはいけないもの〉 |
| 2111: 特に夏に起こりやすい事故 | 4211: 公園 | 5311: すぐに吐かせるもの | 5713: 自転車に子どもを乗せる | 6311: トイレ用洗剤類 |
| 2112: 特に冬に起こりやすい事故 | 4212: 池、川 | 5312: 吐かせてはいけないもの | 5714: 自動車ドライブ | 6312: 漂白剤、カビ取り剤 |
| 3111: 3か月児までに多い事故 | 4213: 海水浴 | 5313: 異物の混入 | 5715: 自転車、三輪車で遊ぶ | 6313: マニキュア、除光液 |
| 3112: 3~6か月児に多い事故 | 4214: 駅、テラート等の施設 | 〈ガスや食べ物などの中毒〉 | 5716: 電車、バスに乗る | 6314: 灯油、シンナー、揮発油類 |
| 3113: 6~9か月児に多い事故 | 4215: 要因別の事故 | 5411: ガス中毒 | 5717: 暑い日の外出 | 6315: ボタン電池 |
| 3114: 9か月~1歳児に多い事故 | 〈墜落、転倒〉 | 5412: 暖房時の換気 | 5718: 緊急時のチェックポイント | 6316: 医薬品類 |
| 3115: 1~2歳児に多い事故 | 5111: 寝返りをうつ | 5413: 食べ物、飲み物の中毒 | 〈事故〉 | 6317: ヨードチンキ、マーキュロ |
| 3116: 3~4歳児に多い事故 | 5112: 歩行器で遊ぶ | 〈溺水、窒息〉 | 6111: 緊急時のチェックポイント | 〈異物の混入〉 |
| 3117: 5~6歳児に多い事故 | 5113: 椅子にすわらせる | 5511: お風呂は大丈夫? | 6112: 心肺蘇生法 | 6411: 気管、のど |
| 4111: リビング | 5114: 窓を開けるときの | 5512: 水を使う家事 | 6113: 顔を打った | 6412: 耳、鼻 |
| 4112: キッチン | 5115: ベランダで遊ぶ | 5513: 水遊び | 6114: 鼻血が出た | 6413: 目 |
| 4113: 寝室 | 5116: 階段が心配 | 5514: ベビーベッドで寝る | 6115: 水におぼれた | 〈急病〉 |
| 4114: 浴室 | 5117: 公園で遊ぶ | 5515: 危険なビニール、コード類 | 6116: ケガで出血した | 6511: 吐いた |
| 4115: 洗面所、トイレ | 5118: だっこ、おんぶをする | 5516: 危険な食べ物 | 6117: やけどをした | 6512: 高熱がでた |
| 4116: 階段 | 5119: ベビーカー、自転車の注意 | 〈傷害〉 | 6118: 動物にかまれた | 6513: おなかที่痛い |
| 4117: ベランダ、窓、サッシ | 〈やけど〉 | 5611: 衝突(打撲) | 6119: 虫に刺された | 6514: 下痢をした |
| | 5211: テープの上は安全? | 5612: 切りキズ | 6120: 骨折、ねんざ、脱臼 | 6515: 発疹がでた |
| | 5212: アイロンをかけるとき | 5613: 刺しキズ | 〈誤飲・すぐ吐かせるもの〉 | 6516: 咳がとまらない |
| | 5213: 料理中の注意 | 5614: はさむ | 6211: たばこ | 6517: ひきつけを起こした |
| | 5214: 暖房器具を使う | 5615: コンセント | 6212: 台所用洗剤、洗濯洗剤類 | 6518: 熱射病(日射病)になった |
| | 5215: お風呂での注意 | 5616: おもちゃ | 6213: 化粧品 | |

※この電話サービスは、事故防止を目的としたもので、応急手当についてはごく初歩的な処置方法しか説明していませんので、救急の場合は必ず病院で指導をうけてください。

指導：国立公衆衛生院母子保健学部長 医学博士 田中哲郎

中毒110番(財)日本中毒情報センター

子どもが毒性の高いもの(薬、化学薬品、有毒植物など)を飲み込んでしまったら、毒性の種類によって救急処置が違います。下記の2カ所で中毒情報の提供及び相談が実施されています。

(通話料の他、3分間300円の情報提供料がかかります)

- つくば中毒110番(有料) 電話0990-529899 (9時~17時 12/31~1/3を除く)
- 大阪中毒110番(有料) 電話0990-502499 (24時間年中無休)

●わが家のメモ

かかりつけの医療機関

子どもの名前 _____

生年月日 . . . 性別() _____
血液型() _____

保護者の連絡先

父 (連絡先) _____
(電話番号) - - _____

母 (連絡先) _____
(電話番号) - - _____

健康保険証の記号番号 _____

医療機関 _____

住所 _____

電話番号 - - _____

主治医 _____

・備考(アレルギー等)

子どものまわりの安全点検

石川県内では、5歳未満の子どもが毎年70人以上死亡しています。なかでも思いがけない事故で亡くなる子どもは10人あまりにのぼっています。死に至らなくても病院で治療を受けた事故や小さな事故はその何十倍も発生しているものと思われます。

大人のちょっとした注意で防げた事故もたくさんあると思います。下の図は月齢・年齢によってどんな事故が多いかを表わしたものです。

子どもは好奇心でいっぱいです。また、その成長は、さっきできなかったことが今できるというほどの変化もあります。

どきとしたことのない親はいないと思います。安全に気配りしながらのびのび育児で、発達に応じたさまざまな経験をさせたいものですね。

子どもの発達と事故

| | 運動機能の発達 | 誤飲・窒息 | 熱 傷 | 転 落 | 溺水事故 | 切傷・打撲 | 交通事故 | 玩 具 |
|------|-----------------------|---|---|-----------------------|------------|---|-------------|---|
| 誕生 | | マクラ 軟らかいフトンによる窒息 | 熱いミルク 熱い風呂 | 親が子供を落とす | 入浴時の事故 | | 自動車同乗中の事故 | |
| 3カ月 | 体動・足をバタバカさせる | | | ベット、ソファからの転落 | | | | |
| 4カ月 | | | | | | | | |
| 5カ月 | 見た物に手を出す 口の中に物を入れる | なんでも口に入れる (タバコ、ビン、小物) | ポット、飲み物など アイロン | | | 床にある鋭い物 | | 小さなおもちゃの誤飲 鋭い角のあるおもちゃ |
| 6カ月 | 寝返りを打つ |  |  | 歩行器による転落 | | | 母親との自転車2人乗り |  |
| 7カ月 | すわる | | | | | | | |
| 8カ月 | はう | | ストーブ、ヒーター | 階段からの転落 | | | 道でのヨチヨチ歩き | |
| 9カ月 | 物をつかむ | ひも、よだれかけ |  | バギーや椅子からの転落 浴槽への転落 | 浴槽への転落事故 | | | |
| 10カ月 | 家具につかまり立ちをする | | | | | 鋭い角の家具・建具 カミソリのいたずら | | |
| 11カ月 | | ナッツ類 | | | | | | |
| 12カ月 | 一人歩きをする | | | 階段での転落 | | | | |
| 13カ月 | スイッチ、ノブ ダイヤルをいじる | クスリ、化粧品の誤飲 ビニール袋 | | | | テーブルの鋭い角、 ドアのガラス ドアに手をはさむ 引き出しの角など | 歩行中の事故 | |
| 1歳半 | 走る、登る | | | 窓、バルコニーからの転落 | | | | |
| 2歳 | 階段を昇り降りする | | マッチ、ライター 湯沸かし器、花火 | | プール、川、海の事故 | | | スベリ台、ブランコ 花火 |
| 3歳 | 高い所へ昇れる | | | | | 家外での石など | 三輪車の事故 |  |
| 3~5歳 | | | | | | | 自転車の事故 | |

参考資料：子どもの事故防止マニュアル 田中西郎 著 診断と治療社

子どもセーフティセンター
(石川県能登中部保健所内)

〒926-0021
七尾市本府中町ソ27-9
☎(0767)53-2482代

チェックしてみよう！

- 階段や段差のある場所に転落防止の工夫をしている。
- テラスや窓のそばに踏み台となるようなものを置かないようにしている。
- ベビーカーに乗せるときは、安全ベルトを締めている。
- ベビーカーから手を離さないようにしている。
- 自転車に相乗りするときは、専用の安全シートを使用している。
- 自転車に子どもだけを乗せたままそばを離れないようにしている。

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

- 子どもの手の届くところに刃物など危険なものを置かないようにしている。
- 子どもの手の届くところにタバコや洗剤、薬、小さなおもちゃなどを置かないようにしている。
- ジュースの空き缶を灰皿代わりにしたり、空きビンに洗剤や薬品などを入れないようにしている。
- 子どもの手の届くところにアイロンや熱い鍋などを置かないようにしている。
- ストーブやヒーターなどにさわれないようにしている。

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

- ドアや引き出しで指を挟まないように注意している。
- テーブルクロスは子どもがさわっても滑り落ちないようにしている。

はい・いいえ

はい・いいえ

- 浴槽に水をためたままにしないようにしている。
- 子どもが一人で浴室に入れないようにしてある。
- 洗濯機に水を入れたままふたを開けておかないようにしている。

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

- 子どもが一人で家から出ていけないようにしてある。
- 家(車)に子どもだけを残さないようにしている。
- 車に乗せるときは、専用の安全シートを使用している。
- 熱い(アチチ)痛い(イタタ)など危険について子どもに声をかけている。

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

はい・いいえ

転落・転倒事故は骨折や頭蓋内出血など重症事故になることもあります。階段などは昇るのが上手でも降りるのがまだ下手です。段差のあるところには柵をすなどして転落防止に心がけましょう。階段の昇り降りには大人が手をつなぐか、大人が下側になって見守ります。降り方も最初は後ろ向きに降りることを教えましょう。高いところからの転落や、ベビーカー・自転車に乗ったままの転倒は重大事故につながります。ベビーカーに乗せるときは安全ベルトをしっかりして、手を離さないようにしましょう。ベビーカーの把っ手にものを掛けないようにしましょう。自転車に相乗りするときは、子供用の専用安全シートに乗せましょう。また、倒れやすいので手を離さないよう、離れるときは必ず子どもを自転車から降ろすようにしましょう。



子どもの手の届くところに危険なものを置かないようにしましょう。危険なものとは、
 1 触ったり口に入れるとけがをするもの(包丁、かみそり、とがったおもちゃ)
 2 触るとやけどするもの(ストーブ、アイロン、鍋、火のついたタバコ)
 3 食べると中毒を起こすもの(タバコ、薬、洗剤、化粧品)
 4 飲み込むと窒息したり、内臓に影響を及ぼすおそれのあるもの(硬貨、小さなおもちゃ、ナッツ類、ボタン電池)
 やけどは程度や広さによっては命にかかります。食べものの温度やお風呂の温度には、十分注意しましょう。熱いもの入ったカップや鍋の取扱にも注意しましょう。湯たんぽやカイロなど余り熱くないと思われるものでも、長時間触れていると皮膚の深くまでやけどが進行することがあります。

つかまり立ちができるころから家具の角で頭を打つことが多くなります。安全用品を利用するなどして危険な時期を乗り越えましょう。テーブルクロスはひっぱると食卓の上の熱い食べもの飲みものをかぶってしまう危険があります。小さな子のいるうちは使わないようにしましょう。

子どもは水遊びが好きです。お風呂はとっても興味深い場所。でも5cmの深さの水でも溺れてしまうことがあります。浴槽に水を貯めたままにしておかないように、貯めておく場合は子どもが一人で浴室へ入れないようにしておきましょう。入浴中も子ども一人にしたり目を離すことのないようにしましょう。バケツや洗面器、洗濯機の水も同様です。

危険について、機会をとらえてわかるようくり返し教えていきましょう。



○ このころの子ども

この年齢になると、歩けるようになり、走り、登り、飛び、活動範囲がぐっと広がります。まわりのもの全てに興味を持ち、手を出し、口に入れてようとして、大人のまねをしたがります。大人が口に運ぶものは自分も口に入れてもいいものだと思います。最もけがや事故の多い時期です。でも、まだ自分で身を守ることはできません。周囲の大人が気を付けて守ってあげなければなりません。下の応急処置や裏面の電話サービス等を参考にしてください。

▼異物を飲み込んだら

右のような物を飲んだ時はいつどのくらい飲んだかを把握して病院で診察を受けましょう。少量ならば危険性の低い物は、クレヨン、鉛筆、せっけん、口紅などです。ようすを見て、元気がありいつもと変わりなければ心配ないでしょう。

| 飲み込んだ物 | 応急処置 | その後の処置 |
|--------------------------------------|---------------------|------------|
| 漂白剤 かびとり剤 トイレ用洗剤 タイルやパイプ用洗剤 | 吐かせない 牛乳や果汁を飲ませる | すぐに病院へ |
| ボタン電池 | | 早めに病院へ |
| たばこ | のどの奥を刺激して吐かせる | 早めに病院へ |
| ナフタリン | 水を飲ませて吐かせる | 早めに病院へ |
| 除光液 灯油 カソリン ペンジン 揮発剤 | 吐かせない 何も飲ませない | すぐに病院へ |
| 殺虫剤 | | 服を着てすぐに病院へ |

▼やけど

まずやけどをした部分を冷やし続けること。ただし、乳児の場合体温が下がらないよう気をつけましょう。
 ●手や足 水道の水を出しっぱなしにして冷やす。
 ●顔や頭 シャワーなどで冷やす。目や耳は冷たいタオルをごまめに替えて冷やす。
 ●全身 服を着せたままお風呂などで大量の水を使って冷やす。
 広い範囲のやけどや水ぶくれになるような場合は、すぐに治療を受けましょう。

▼溺水

まず、呼吸状態を確認します。息をしていなければ、ただちに口で人工呼吸を行い、心臓マッサージを行いながら、救急車を呼びます。水に沈んでいた場合は、事故現場での応急処置の成否が、生死を左右するので、すぐに大声を上げて人を呼び、人工呼吸を開始します。水を飲んだ場合は、肺炎などを起こす危険があるので、必ず医師に診てもらいましょう。

救命処置

人工呼吸のやり方

① おおむけに寝かせ、顔に片方の手のひらを当てて顔を後ろにそらせ、他方の手の指でお口をもち上げる(気道の確保)。

② 1歳くらいまでの乳児の場合は、子どもの口と鼻の両方に口をかぶせて、息を吹き込む。目安は3秒に1回程度。

心臓マッサージのやり方

① 子どもをおおむけに寝かせ、

② 乳児(1歳くらいまでの場合は、左右の乳首のまん中より僅1本下あたりに2本の指を当て、胸を強く押し、力を抜く。これを1分間に100回ほどくり返す。

幼児(1歳以上)の場合は、胸骨(おなかのあたりの骨)の上の手のひらを当て、手首に近い部分で2~3cmへこむくらい押し、力を抜く。これを1分間に50~100回ほどくり返す。

お母さんあわてないで！思わぬ事故から赤ちゃんや子どもを守りましょう。

乳幼児の事故防止と応急手当 0990-528199

●監修
財団法人母子衛生研究会
●提供
健康生活情報センター
所在地・東京 TEL (03) 3499-3111

24時間いつでもご利用いただけます。

●ご利用方法

- ・あらかじめ下記の表で、知りたい情報の項目番号を確認し、上記の電話番号をダイヤルします。
- ・ご利用案内のテープが流れますので、案内終了後、指示にしたがい知りたい情報の項目番号と#を押します。

（ご利用上の注意）

- ◎このサービスは、プッシュ回線の電話またはプッシュ番号音での電話機でご利用いただけます。
- ◎一部通信不能の地域があります。「0120-409901」にご確認ください。
- ◎このサービスのご利用にあたっては、通話料の他に情報料として10秒あたり約13円の料金がかかります。
- ◎状況の変化やご要望などにより、情報内容を一部改訂する場合があります。

| | | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 赤ちゃんの目をばねじらす事故 | 4118: 玄関、廊下 | 5216: マッチ、ライターの保管 | （外出時） | 6214: 消臭剤、乾燥剤 |
| 1111: 赤ちゃんに多い事故 | 4119: 庭、物置 | 5217: 花火で遊ぶ | 5711: 散歩をする | 6215: ナフタリン、しょうのう |
| 1112: 幼児に多い事故 | （屋外） | （誤飲、異物の混入） | 5712: ベビーカーでお出かけ | （誤飲・吐かせてはいけないもの） |
| 1113: いざという時のために | 4211: 公園 | 5311: すぐに吐かせるもの | 5713: 自転車に子どもを乗せる | 6311: トイレ用洗剤類 |
| 季節別別起りやすい事故 | 4212: 池、川 | 5312: 吐かせてはいけないもの | 5714: 自動車ドライブ | 6312: 漂白剤、カビ取り剤 |
| 2111: 特に夏に起こりやすい事故 | 4213: 海水浴 | 5313: 異物の混入 | 5715: 自転車、三輪車で遊ぶ | 6313: マニキュア、除光液 |
| 2112: 特に冬に起こりやすい事故 | 4214: 駅、デパート等の施設 | （ガスや食べ物などの中毒） | 5716: 電車、バスに乗る | 6314: 灯油、シンナー、揮発油類 |
| 毎月別別起りやすい事故 | （墜落、転倒） | 5411: ガス中毒 | 5717: 暑い日の外出 | 6315: ボタン電池 |
| 3111: 3か月児までに多い事故 | （墜落、転倒） | 5412: 暖房時の換気 | （事故） | 6316: 医薬品類 |
| 3112: 3～6か月児に多い事故 | 5111: 寝返りをうつ | 5413: 食べ物、飲み物の中毒 | 6111: 緊急時のチェックポイント | 6317: ヨードチンキ、マーキュロ |
| 3113: 6～9か月児に多い事故 | 5112: 歩行器で遊ぶ | （溺水、窒息） | 6112: 心臓蘇生法 | （異物の混入） |
| 3114: 9か月～1歳児に多い事故 | 5113: 椅子にすわらせる | 5511: お風呂は大丈夫? | 6113: 頭を打った | 6411: 気管、のど |
| 3115: 1～2歳児に多い事故 | 5114: 窓を開けるとき | 5512: 水を使う家事 | 6114: 鼻血が出た | 6412: 耳、鼻 |
| 3116: 3～4歳児に多い事故 | 5115: ベランダで遊ぶ | 5513: 水遊び | 6115: 水におぼれた | 6413: 目 |
| 3117: 5～6歳児に多い事故 | 5116: 階段が心配 | 5514: ベビーベッドで寝る | 6116: クガで出血した | （急病） |
| 場所別別起りやすい事故 | 5117: 公園で遊ぶ | 5515: 危険なビニール、コード類 | 6117: やけどをした | 6511: 吐いた |
| （家庭内） | 5118: だっこ、おんぶをする | 5516: 危険な食べ物 | 6118: 動物にかまれた | 6512: 高熱がでた |
| 4111: リビング | 5119: ベビーカー、自転車の注意 | （傷害） | 6119: 虫に刺された | 6513: おなかが痛い |
| 4112: キッチン | （やけど） | 5611: 衝突（打撲） | 6120: 骨折、ねんご、脱臼 | 6514: 下痢をした |
| 4113: 寝室 | 5211: テーブルの上は安全? | 5612: 切りキズ | （誤飲・すぐ吐かせるもの） | 6515: 発疹がでた |
| 4114: 浴室 | 5212: アイロンをかけるとき | 5613: 刺しキズ | 6211: たばこ | 6517: ひきつけを起こした |
| 4115: 洗面所、トイレ | 5213: 料理中の注意 | 5614: はさむ | 6212: 台所用洗剤、洗濯洗剤類 | 6518: 熱射病（日射病）になった |
| 4116: 階段 | 5214: 暖房器具を使う | 5615: コンセント | 6213: 化粧品 | |
| 4117: ベランダ、窓、サッシ | 5215: お風呂での注意 | 5616: おもちゃ | | |

※この電話サービスは、事故防止を目的としたもので、応急手当についてはごく初歩的な処置方法しか説明していませんので、救急の場合は必ず病院で指導をうけてください。

指導：国立公衆衛生院母子保健学部長 医学博士 田中哲郎

中毒110番（財）日本中毒情報センター

子どもが毒性の高いもの（薬、化学薬品、有毒植物など）を飲み込んでしまったら、毒性の種類によって救急処置が違います。下記の2カ所で中毒情報の提供及び相談が実施されています。

（通話料の他、3分間300円の情報提供料がかかります）

- つくば中毒110番（有料）電話0990-529899（9時～17時 12/31～1/3を除く）
- 大阪中毒110番（有料）電話0990-502499（24時間年中無休）

●わが家のメモ

| | |
|------------|-------------------|
| 子どもの名前 | |
| 生年月日 | 性別 () 血液型 () |
| 保護者の連絡先 | |
| (連絡先) | |
| 父 | (電話番号) - - |
| (連絡先) | |
| 母 | (電話番号) - - |
| 健康保険証の記号番号 | |

かかりつけの医療機関

| |
|-------------|
| 医療機関 |
| 住所 |
| 電話番号 |
| 主治医 |
| ・備考（アレルギー等） |

子どものまわりの安全点検

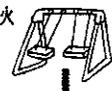
石川県内では、5歳未満の子どものが毎年70人以上死亡しています。なかでも思いがけない事故で亡くなる子どもは10人あまりにのぼっています。死に至らなくても病院で治療を受けた事故や小さな事故はその何十倍も発生しているものと思われます。

大人のちょっとした注意で防げた事故もたくさんあると思います。下の図は月齢・年齢によってどんな事故が多いかを表わしたものです。

子どもは好奇心でいっぱいです。また、その成長は、さっきできなかったことが今できるというほどの変化もあります。

どきとしたことのない親はいないと思います。安全に気配りしながらのびのび育児で、発達に応じたさまざまな経験をさせたいものですね。

子どもの発達と事故

| | 運動機能の発達 | 誤飲・窒息 | 熱 傷 | 転 落 | 溺水事故 | 切傷・打撲 | 交通事故 | 玩 具 |
|------|-----------------------|---|---|--------------|------------|---|-------------|---|
| 誕 生 | | マクラ 軟らかいフトンによる窒息 | 熱いミルク 熱い風呂 | 親が子供を落とす | 入浴時の事故 | | 自動車同乗中の事故 | |
| 3カ月 | 体動・足をバタバカさせる | | | ベット、ソファからの転落 | | | | |
| 4カ月 | | | | | | | | |
| 5カ月 | 見た物に手を出す 口の中に物を入れる | なんでも口に入れる (タバコ、ビン、小物) | ポット、飲み物など アイロン | | | 床にある鋭い物 | | 小さなおもちゃの誤飲 鋭い角のあるおもちゃ |
| 6カ月 | おもちゃを打つ |  |  | 歩行器による転落 | | | 母親との自転車2人乗り |  |
| 7カ月 | ずわる | | | | | | | |
| 8カ月 | はう | | ストーブ、ヒーター | 階段からの転落 | | | 道でのヨチヨチ歩き | |
| 9カ月 | 物をつかむ | ひも、よだれかけ |  | バギーや椅子からの転落 | 浴槽への転落事故 | | | |
| 10カ月 | 家具につかまり立ちをする | | | 浴槽への転落 | | 鋭い角の家具・建具 カミソリのいたずら | | |
| 11カ月 | | ナッツ類 | | | | | | |
| 12カ月 | 一人歩きをする | | | 階段での転落 | | | | |
| 13カ月 | スイッチ、ノブ ダイヤルをいじる | クスリ、化粧品の誤飲 | | | | テーブルの鋭い角、 ドアのガラス ドアに手をはさむ 引き出しの角など | 歩行中の事故 | |
| 1歳半 | 走る、登る | ビニール袋  | | 窓、バルコニーからの転落 | | | | |
| 2 歳 | 階段を昇り降りする | | マッチ、ライター 湯沸かし器、花火 | | プール、川、海の事故 | | | スベリ台、ブランコ 花火  |
| 3 歳 | 高い所へ昇れる | | | | | 家外での石など | 三輪車の事故 | |
| 3~5歳 | | | | | | | 自転車の事故 | |

参考資料：子どもの事故防止マニュアル 田中西郎 著 診断と治療社

子どもセーフティセンター
(石川県能登中部保健所内)

〒926-0021
七尾市本府中町ソ27-9
☎(0767) 53-2482(代)

チェックしてみよう！

- 赤ちゃん用品の安全性を確認して買っている。
- 敷きふとんは硬めのものを使っている。
- うつぶせで寝かせるときは、目を離さないようにしている。
- 寝かせているときには、鼻や口にふとんがかからないようにしている。
- 寝かせているときには、顔のまわりにガーゼ、タオル、ビニール袋などを置かないようにしている。
- 赤ちゃんの首にひも（よだれかけやお守りなど）がからまないようにしている。
- 赤ちゃんにミルクを飲ませるときは、熱すぎないか確認している。
- 赤ちゃんに母乳やミルクを飲ませたあと、ゲップをさせ、しばらくは吐かないように注意している。
- 赤ちゃんのそばを離れるときは、少しの間でもベッドの欄を上げている。
- 寝かせている赤ちゃんの上にもものが落ちてこないようにしてある。
- ベビーカーに乗せるときは安全ベルトを締めている。
- ベビーカーから手を離さないようにしている。
- 車に乗せるときは小児用安全シート（チャイルドシート）に乗せている。
- 家（車の中）に赤ちゃんだけや赤ちゃんともどもだけを残して外出しないようにしている。
- 赤ちゃんを抱きながらタバコを吸ったり熱いお茶を飲まないようにしている。
- 鍋など熱いものを運ぶときには、赤ちゃんのいるところを確認しながら運ぶようにしている。
- ストープやヒーターのそばに寝かせたり、こたつの中、ホットカーベットのの上に寝かせたままにしないようにしている。

はい・いいえ

ふかふかのふとんやうつぶせ寝は窒息の原因になることがあります。ふとんは硬めのものを使い、うつぶせにしたときはそばにいて目を離さないようにしましょう。

顔にかかったものをよけることができるようになるのは、5カ月過ぎです。顔のまわりにものを置かないようにしましょう。

赤ちゃんの口の大きさは最大32mmといわれており、これより小さなものは口の中に入ってしまいます。ボタン電池や小さな部品のついたもの、とがったものにも注意が必要です。

ミルクを飲ませるときは、必ず温度を確認しましょう。

また、ミルクを飲んだ後は、吐くことがあり、吐いたものがのどにつまることがあるので注意しましょう。



かわいい赤ちゃんの頭の上にオルゴール。落ちたときに赤ちゃんに当たりにませんか。ベッドのすぐ横のタンスの上に人形ケースがあったりしませんか。



月齢が大きくなると赤ちゃんが急に動くことがあります。抱いたままあるいはひざにのせたまま熱いものを飲食したり、タバコを吸ったりすると、思わぬやけどを負うことがあります。

また、暖房器具も、電気アンカや湯たんぽといった比較的低温のものでも長時間触れているとやけどをします。ホットカーベットやこたつに長時間寝かしていると子どもが脱水症状を起こすことがあります。

○ このころの赤ちゃん

ほとんどベッドの中で生活している時期です。4カ月になると首がすわり手足がよく動き、手に触れるものを握ったりなめたりするようになります。また、思わぬ動きをすることがあり、目を離したスキにベッドから落ちるということも起こります。このころの赤ちゃんの事故は、大人が注意していれば防げるものが多いものです。

頭を打ったとき

・意識があるか—ある→ようすを見て他の症状の有無を確認

↓
(ない)

・呼吸があるか—ある→気道（鼻から肺までの空気の通りみち）を確認し、吐いたものが気管に入らないよう横向きに寝かせて救急車の手配を

↓
(ない)

気道を確認し、人工呼吸を開始し、救急車の手配を

・出血がひどいとき——止血処置をして救急車の手配を

・くり返し吐くとき——吐いたものが気管に入らないよう横向きにねかせて救急車の手配を

・顔色が悪く元気がない——病院で診察を

・こぶができたとき——安静にして冷たいタオルで冷やす

人工呼吸のやり方



①

あおむけに寝かせ、顔に井手の手のひらを当てて目を後ろにそらせ、他方の手の指であごを持ち上げる（気道の確保）。



②

1歳くらいまでの乳児の場合は、子どもの口と鼻の両方に口をかぶせて、息を吹き込む。目安は3秒に1回程度。



幼児（1歳以上）の場合は、子どもの鼻をつまんで口に息を吹き込む。目安は4秒間に1回程度。いずれも自分で呼吸できるようにするまで続ける。

▼ やけど

まずやけどをした部分を冷やし続けること。

ただし、乳児の場合体温が下がらないよう気をつけましょう。

服の上からやけどをした場合は、無理に脱がさず上から冷やします。

●手や足 水道の水を出しっぱなしにして冷やす。

●顔や頭 シャワーなどで冷やす。目や耳は冷たいタオルをこまめに替えて冷やす。

●全身 服を着せたままお風呂などで大量の水を使って冷やす。

範囲が小さく赤くなった程度なら、まず流水で十分に冷やし、痛みがとれれば清潔なガーゼなどでおい、その後の経過を見てから病院へ。

広い範囲のやけどや水ぶくれになるような場合は、すぐに治療を受けましょう。

患部にしょうゆやみそ、オイルなどをぬってはいけません。

救急車を呼ぶときは・・・119番

1 119番に電話をかけ、「救急です」とはっきり告げる。

2 聞かれたことにはっきり答える。

・氏名、所在地、目印、電話番号など

・いつ、どこで、どうしたなどの状況

3 救急車が到着するまでに処置することがあるかをたずねる。

4 救急隊の指示には必ず従う。

注) 救急車は生命が危険にさらされ一刻を争うようなときに利用するものです。本当に必要かどうかを落ち着いて判断しましょう。

お母さんあわてないで！思わぬ事故から赤ちゃんや子どもを守りましょう。

乳幼児の事故防止と応急手当 0990-528199

●監修
財団法人母子衛生研究会
●提供
健康生活情報センター
所在地・東京 TEL (03) 3499-3111

24時間いつでもご利用いただけます。

●ご利用方法

- ・あらかじめ下記の表で、知りたい情報の項目番号を確認し、上記の電話番号をダイヤルします。
- ・ご利用案内のテープが流れますので、案内終了後、指示にしたがい知りたい情報の項目番号と*を押します。

(ご利用上の注意)

- ◎このサービスは、プッシュ回線の電話またはプッシュ信号音のでる電話機でご利用いただけます。
- ◎一部通話不能の地域があります。[0120-409901]にご確認ください。
- ◎このサービスのご利用にあたっては、通話料の他に情報料として10秒あたり約13円の料金がかかります。
- ◎状況の変化やご要望などにより、情報内容を一部改訂する場合があります。

| | | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 赤ちゃんとお母さんとの事故 | 4118: 玄関、廊下 | 5216: マッチ、ライターの保管 | 〈外出時〉 | 6214: 消臭剤、乾燥剤 |
| 1111: 赤ちゃんに多い事故 | 4119: 庭、物置 | 5217: 花火で遊ぶ | 5711: 散歩をする | 6215: ナフタリン、しょう油 |
| 1112: 幼児に多い事故 | 〈屋外〉 | 〈誤飲、異物の混入〉 | 5712: ベビーカーでお出かけ | 〈誤飲・吐かせてはいけないもの〉 |
| 1113: いざというときのために | 4211: 公園 | 5311: すぐに吐かせるもの | 5713: 自転車に子どもを乗せる | 6311: トイレ用洗剤類 |
| 季節別の起こりやすい事故 | 4212: 池、川 | 5312: 吐かせてはいけないもの | 5714: 自動車ドライブ | 6312: 漂白剤、カビ取り剤 |
| 2111: 特に夏に起こりやすい事故 | 4213: 湯水浴 | 5313: 異物の混入 | 5715: 自転車、三輪車で遊ぶ | 6313: マニキュア、除光液 |
| 2112: 特に冬に起こりやすい事故 | 4214: 駅、デパート等の施設 | 〈ガスや食べ物などの中毒〉 | 5716: 電車、バスに乗る | 6314: 灯油、シンナー、揮発油類 |
| 毎月別の起こりやすい事故 | 〈原因別の事故等〉 | 5411: ガス中毒 | 5717: 暑い日の外出 | 6315: ボタン電池 |
| 3111: 3か月児までに多い事故 | 〈墜落、転倒〉 | 5412: 寝房時の換気 | 〈事故〉 | 6316: 医薬品類 |
| 3112: 3~6か月児に多い事故 | 5111: 寝返りをうつ | 5413: 食べ物、飲み物の中毒 | 6111: 緊急時のチェックポイント | 6317: ヨードチンキ、マーキュロ |
| 3113: 6~9か月児に多い事故 | 5112: 歩行器で遊ぶ | 〈溺水、窒息〉 | 〈異物の混入〉 | |
| 3114: 9か月~1歳児に多い事故 | 5113: 椅子にすわらせる | 5511: お風呂は大丈夫? | 6112: 心肺蘇生法 | 6411: 気管、のど |
| 3115: 1~2歳児に多い事故 | 5114: 窓を開けるときの | 5512: 水を使う家事 | 6113: 頭を打った | 6412: 耳、鼻 |
| 3116: 3~4歳児に多い事故 | 5115: ベランダで遊ぶ | 5513: 水遊び | 6114: 鼻血が出た | 6413: 目 |
| 3117: 5~6歳児に多い事故 | 5116: 階段が心配 | 5514: ベビーベッドで寝る | 6115: 水におぼれた | 〈急病〉 |
| 場所別の起こりやすい事故 | 5117: 公園で遊ぶ | 5515: 危険なビニール、コード類 | 6116: ケガで出血した | 6511: 吐いた |
| 〈家庭内〉 | 5118: だっこ、おんぶをする | 5516: 危険な食べ物 | 6117: やけどをした | 6512: 高熱がでた |
| 4111: リビング | 5119: ベビーカー、自転車の注意 | 〈傷害〉 | 6118: 動物にかまれた | 6513: おなかが痛い |
| 4112: キッチン | 〈やけど〉 | 5611: 衝突(打撲) | 6119: 虫に刺された | 6514: 下痢をした |
| 4113: 寝室 | 5211: テーブルの上は安全? | 5612: 切りキズ | 6120: 骨折、ねんざ、脱臼 | 6515: 発疹がでた |
| 4114: 浴室 | 5212: アイロンをかけるとき | 5613: 刺しキズ | 〈誤飲・すぐ吐かせるもの〉 | 6516: 咳がとまらない |
| 4115: 洗面所、トイレ | 5213: 料理中の注意 | 5614: はさむ | 6211: たばこ | 6517: ひきつけを起こした |
| 4116: 階段 | 5214: 暖房器具を使う | 5615: コンセント | 6212: 台所用洗剤、洗濯洗剤類 | 6518: 熱射病(日射病)になった |
| 4117: ベランダ、窓、サッシ | 5215: お風呂での注意 | 5616: おもちゃ | 6213: 化粧品 | |

*この電話サービスは、事故防止を目的としたもので、応急手当についてはごく初歩的な処置方法しか説明していませんので、救急の場合は必ず病院で指導をうけてください。

指導：国立公衆衛生院母子保健学部長 医学博士 田中哲郎

中毒110番(財)日本中毒情報センター

子どもが毒性の高いもの(薬、化学薬品、有毒植物など)を飲み込んでしまったら、毒性の種類によって救急処置が違います。下記の2カ所で中毒情報の提供及び相談が実施されています。

(通話料の他、3分間300円の情報提供料がかかります)

- つくば中毒110番(有料) 電話0990-529899 (9時~17時 12/31~1/3を除く)
- 大阪中毒110番(有料) 電話0990-502499 (24時間年中無休)

●わが家のメモ

かかりつけの医療機関

子どもの名前 _____

生年月日 . . . 性別 ()
血液型 ()

保護者の連絡先

父 (連絡先) _____
(電話番号) - -

母 (連絡先) _____
(電話番号) - -

健康保険証の記号番号 _____

医療機関 _____

住所 _____

電話番号 - -

主治医 _____

・備考(アレルギー等)

子ども セーフティセンター

設置趣旨

本県の不慮の事故による乳幼児の死亡率は、全国平均を上回っており、少子化の進展する中で一人ひとりの子どもを健やかに育てることが強く求められている点からも大きな問題となっています。

そこで、子どもの事故を予防するための情報発信と啓発活動の拠点として、石川県能登中部保健所内に「子どもセーフティセンター」を設置しました。

(開所：平成10年1月13日)

台所や浴室の
模型・安全用品・
パネルの展示

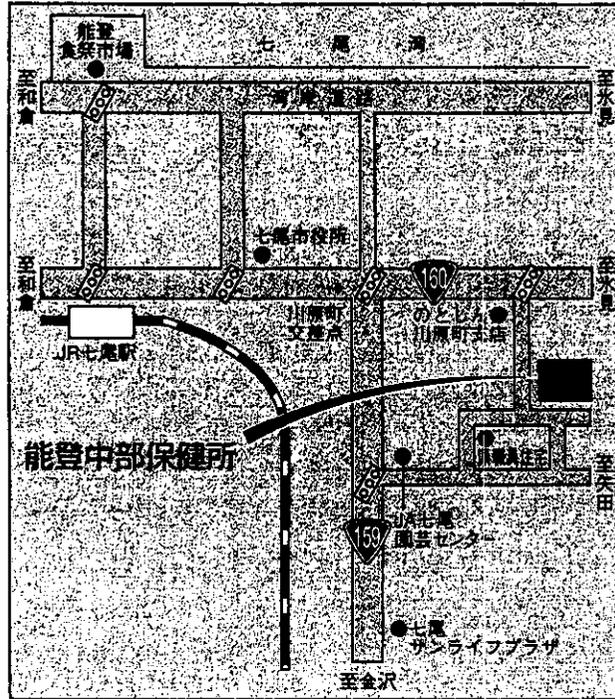
事故予防の
情報提供

事故予防教室の
開催

展示品の
貸し出し

開館日 毎週月曜日から金曜日
開館時間 午前9時から午後5時
(土・日・祝日及び
年末年始は休館します)

案内図



子どもセーフティセンター (石川県能登中部保健所内)

〒926-0021 石川県七尾市本府中町ソ27番9

TEL(0767)53-2482(代)

FAX(0767)53-2484

「子どもセーフティライブラリー」 のご利用案内

1 貸し出し教材

子ども事故予防に関するビデオテープ・図書・パネル・展示物を貸し出します。

2 貸し出し対象

★一般住民

★市町村、学校、教育関係者、婦人会、保育園、幼稚園関係者、その他各種団体等

3 貸し出し期間

★原則として、1週間以内

4 貸し出し手続き

★利用希望の方は、当保健所 企画調整課へお申し込み下さい。

子どもセーフティセンター（能登中部保健所内）

（〒926-0021 七尾市本府中町ソ27番9 TEL 0767-53-2482）

★受付は、毎週 月曜日～金曜日 AM 8:30 ～ PM 5:15



ビ デ オ

| NO | タイトル | 様・類 | 内 容 (制作) |
|------|---------------------------------|-----------|---|
| A122 | ママの応急手当 -発熱から心肺蘇生法 まで- | 一般 21分 | 子どもの生活が広がるにつれ、事故にあったり、病気にかかる恐れも増えます。そんな時の応急手当についてわかりやすく指導 |
| 123 | わが子を軸から守る 赤ちゃん安心マニュアル | 一般 30分 | 子どもに多い事故の原因とその対応方法。転倒、水の事故、誤飲、やけどの事故からわが子を守る工夫がたくさん紹介されている。 (主婦の友) |
| 124 | 住宅の中の安全対策 | 一般 40分 | 家庭でひんぱんにおこる子供の事故をとりあげ、住まいの各場所を中心にその防止対策として考えられる住宅の安心設計と日常生活での注意点について小児科医の話を取り込みながら紹介する。 |
| 125 | Kid Safe 池袋保健所 | 団体 7分 | 池袋保健所（東京都）の Kid Safeコーナーの展示パネル等の紹介（音声なし） |
| 126 | オーストラリア Safety Center | 団体 7分 | オーストラリアのセーフティセンター、キッドセーフの展示状況等 (平成9年度 視察研修記録) |
| 127 | これだけは知っておきたい応急手当No.4 乳児の応急手当 | 一般 20分 | ・緊急時の対応 ・事故とけがへの対応 ・心配な症状への対応 |
| 128 | これだけは知っておきたい応急手当No.5 幼児の応急手当 | 一般 20分 | ・緊急時の対応 ・事故とけがへの対応 ・心配な症状への対応 |
| 129 | ほっと石川 乳幼児の事故防止と 対策 | 一般 15分 | 子どもセーフティセンターの紹介 乳幼児の事故防止と対策について指導 |



子どもセーフティセンター
展示物一覧

図書

| | 書籍名 | 著者 | 出版社 |
|-----|--|------------------|------------------|
| F1 | お母さんだから気がつく治せる 赤ちゃんの症状と病気のけが | 巻野 悟郎 | 新星出版社 |
| F2 | 赤ちゃん救急ノート いざというときこれで安心 | 赤松 洋 | 成美堂出版 |
| F3 | ケガ 誤飲 転落 事故だ! | 毛利 子来 山田 真 | ジャパンマシニスト社 |
| F4 | 絵でみるこどもの応急手当 | 西村 昴三 | 教育社 |
| F6 | 子どもと出かける あそび場ガイド 石川 | 岩崎 悦郎 | 楓工房 |
| F6 | 住まいと子どもの居場所100章 | 東 孝光 | 鹿島出版社 |
| F7 | 事故防止対策の課題 | 田中 哲郎 杉山 太幹 | 財団法人 日本公衆衛生協会 |
| F8 | 子どものための遊び環境 計画・デザイン・運営管理 のための全ガイドライン | ロビン・チア 吉田 鐵也訳 | 鹿島出版社 |
| F9 | 安全な遊び場と道具 | 福岡 孝純 | 鹿島出版社 |
| F10 | 長寿社会対応住宅の手引き 人にやさしい住まいづくり | 古瀬 敏 | 都市文化社 |
| F11 | 子どものケガ・事故・予防・救急ブック | 山中 龍宏 | ほんの木 |
| F12 | 住まいの文化シリーズ 住まいの暮らしの安全 | 直井 英雄 関沢 愛 | 理工図書株式会社 |
| F13 | やさしさの住居学 | 清家 清 | 情報センター出版局 |
| F14 | 子どもの事故防止マニュアル 平成9年度 | 田中 哲郎 | 診断と治療社 |
| F15 | 幼児の危害・危険情報アンケート調査 報告書 | | 東京都生活文化局消費生活部 |

<パネル>

| | タイトル | 内 容 | 貸出可能なもの |
|----|--------------|--|---------|
| 1 | 子どものまわりの安全点検 | ・家の中の安全点検 ・道路や公園などでの安全点検 | ○ |
| 2 | やけど | ・ポットや電気炊飯器などによる事故 ・お湯や熱い食べ物による事故 | ○ |
| 3 | やけど | ・ストーブやアイロンなどの電気器具による事故 ・湯たんぼ、ホットカーペットや電気毛布などによる事故 | ○ |
| 4 | 溺水(できすい) | ・洗濯機、バケツ、洗面器などによる事故 ・プールや川、池、海での事故 | ○ |
| 5 | 溺水(できすい) | ・お風呂場などでの事故 | ○ |
| 6 | 転落と転倒 | ・階段やベランダ、窓からの転落事故 ・道路や遊び場などでの事故 | ○ |
| 7 | 転落と転倒 | ・寝返りによる転落事故 ・子ども用ハイチェア(椅子)による転落事故 | ○ |
| 8 | 切傷と打撲 | ・包丁やカミソリなどによる事故 ・ドアや窓などによる事故 ・テーブルや家具などによる事故 | ○ |
| 9 | 窒息(ちっそく) | ・ふとん、タオルやガーゼ、ビニールなどによる事故 ・ビーナッツやアメなどによる事故 | ○ |
| 10 | 誤飲(ごいん) | ・たばこや小銭、ボタン、電池などによる事故 ・殺虫剤や薬品、洗剤、化粧品などによる事故 ・おもちゃなどによる事故 | ○ |
| 11 | 車での事故 | ・自動車に乗車中の事故 ・ベビーカーなどによる事故 ・歩行中や自転車による事故 | ○ |